

I 第40週の発生動向 (2014/9/29~10/5)

1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については患者報告数が前週の20人から43人に増加し今後の発生動向に注意が必要です。
2. 感染性胃腸炎については患者報告数が前週の45人から69人に増加し今後の発生動向に注意が必要です。

II 第40週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
(90) インフルエンザ															0				
(79) RSウイルス感染症			4	0.4	4	0.4	1	0.2			1	0.3	10	0.2	-1				
(80) 咽頭結膜熱			5	0.6									5	0.1	4				
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	1.0	6	0.7	26	2.6			2	0.3	1	0.3	43	1.0	23			8	1.0
(82) 感染性胃腸炎	25	3.1	9	1.0	18	1.8	1	0.2	1	0.2	15	3.8	69	1.6	24			25	3.1
(83) 水痘	1	0.1	3	0.3	4	0.4	3	0.6	6	1.0	11	2.8	28	0.7	-12			1	0.1
(84) 手足口病	2	0.3	4	0.4									6	0.1	-3			2	0.3
(85) 伝染性紅斑			3	0.3	8	0.8							11	0.3	-4				
(86) 突発性発しん	4	0.5	1	0.1	5	0.5	1	0.2	2	0.3			13	0.3	-4			4	0.5
(87) 百日咳									3	0.5			3	0.1	2				
(88) ヘルパンギーナ	4	0.5	1	0.1	1	0.1			2	0.3			8	0.2	-16			4	0.5
(89) 流行性耳下腺炎					1	0.1							4	0.1	-3				
(91) 急性出血性結膜炎												3	0.8	0					
(92) 流行性角結膜炎					1	0.5	1	1.0					2	0.2	-1				
(97) クラミジア肺炎															0				
(98) 細菌性髄膜炎															0				
(100) マイコプラズマ肺炎					1	1.0						2	2.0	3	0.5	-3			
(101) 無菌性髄膜炎															0				
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0				

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森市1人、弘前1人、八戸3人、むつ1人 (2014年計:289人)
- (15) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 上十三2人 (2014年計:18人)
- (59) レプトスピラ症(四類全数把握疾患): 弘前1人 (2014年計:1人)

IV 病原体検出情報 ※ () 内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

- ・ヘルパンギーナ(咽頭ぬぐい液、7/17)・・・HHV6B: 弘前(1)
- ・上気道炎患者(鼻汁、8/12)・・・ライノウイルスA: 弘前(1)
- ・下気道炎患者(鼻汁、7/23~8/13)・・・ライノウイルスA: 八戸(1)、ライノウイルスC: 弘前(1)、ヒトメタニューモウイルス: 弘前(2)、ヒトメタニューモウイルス及びパラインフルエンザウイルス1型: 弘前(1)
- ・ウイルス性紅斑患者:(咽頭ぬぐい液、7/7)・・・エコーウイルス30型: 八戸(1)
- ・エンテロウイルス感染症疑い患者:(ふん便、8/1)・・・エコーウイルス11型: 八戸(1)

感染症の窓

感染性胃腸炎(ノロウイルス感染症)

感染性胃腸炎は、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには、ノロウイルス以外にロタウイルスやアデノウイルスなどがあります。日本での感染性胃腸炎の発生状況は秋から春にかけて流行し、12月がピークとなっています(図1)。

ノロウイルスは手指や食品などを介して、経口感染し、ヒトの腸管で増殖し、嘔吐、下痢、腹痛などを起こします。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがありますので注意が必要です。治療は輸液などの対症療法に限られます。感染症発生動向調査(週報)の中では感染症法の5類感染症定点把握疾患で、感染性胃腸炎として全国約3,000カ所の小児科定点医療機関から報告されています。報告にあたっては原因病原体の特定は求められていないので、ノロウイルス以外の病原体によるものも含まれますが、同一症状を呈する疾患の動向は把握できます。全国における発生状況は、平成25年11月(第45週頃)から報告数が増加し、平成26年6月(第25週頃)までは報告数は増減しながら多い状況が続き、7月(第27週頃)から減少しました。青森県においても、全国と概ね同様ですが、全国に比べて患者数は少なく推移しています(図1)。今後の発生動向に注意が必要です。年齢別患者報告数では、1歳の年齢層で最も多く発生しています(図2)。感染予防としては、手洗いの励行が基本です。また、患者が発生した場合は、調理器具等は洗剤などを使用し十分に洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度200ppm)で浸すように拭くことでウイルスを失活化できます(家庭用漂白剤(塩素濃度5%)のキャップ1杯分(約5mL)を、1Lの水で薄めると200~300ppm塩素液になります)。また、まな板、包丁、へら、食器、ふきん、タオル等は熱湯(85℃以上)で1分以上の加熱が有効です。

なお、厚生労働省のホームページでは、ノロウイルスに関するQ&Aを掲載しています。

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>)

【参考】IDWR「感染症の話」

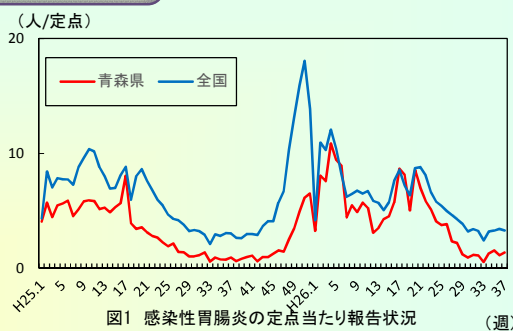


図1 感染性胃腸炎の定点当たり報告状況 (2013年第1週~14年第38週)

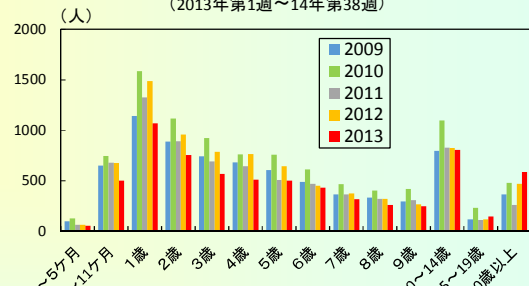


図2 過去5年間の県内における感染性胃腸炎の年齢別患者報告数

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第24週～第40週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	つつが虫病1人		E型肝炎1人 つつが虫病2人			
25	H26.6.16 ~ H26.6.22			アメーバ赤痢1人 侵袭性肺炎球菌感染症1人		つつが虫病1人	
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	つつが虫病1人					
27	H26.6.30 ~ H26.7.6		侵袭性インフルエンザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 つつが虫病1人		
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	梅毒1人		腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	A型肝炎1人 レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌感染症1人	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5		レプトスピラ症1人			腸管出血性大腸菌感染症2人	

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第30週～第40週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
30	H26.7.21 ~ H26.7.27	2	2	3	1		1
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	3	1	7			
32	H26.8.4 ~ H26.8.10		5	4	1		
33	H26.8.11 ~ H26.8.17		1	4		2	
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		
35	H26.8.25 ~ H26.8.31	1	2	12	1	1	
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	1	5	3		1	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14	3	3	7	1	1	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21		1	4	1	1	
39	H26.9.22 ~ H26.9.28		1	2	1	2	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5	1	1	3			1

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第38週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキコックス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コクシジオides症	重症熱性血小板減少症候群	チクンギア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポツリヌス症	マリア
累積報告数	18587	3	80	3324	36	14	107	399	14	7	1	1	1	55	9	115	276	152	1	10	1	49
分類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	野兔病	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵袭性インフルエンザ菌感染症	侵袭性髄膜炎	侵袭性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	パンコマン菌性腸球菌感染症	風しん	麻しん	
累積報告数	1	9	882	24	810	177	349	83	123	200	1098	44	146	26	1269	8	1186	96	37	285	447	

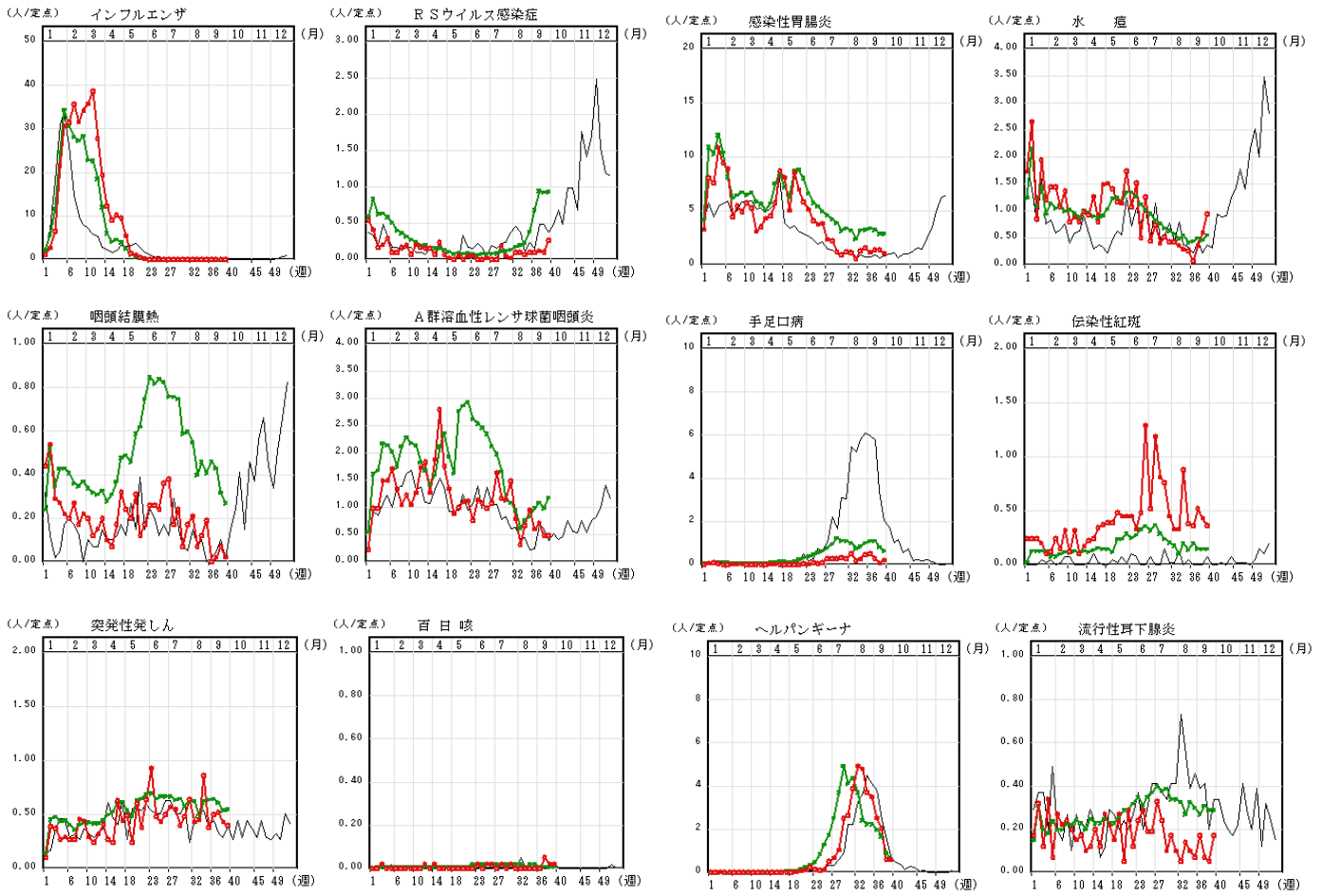
青森県

(2014年第1週～10月7日9:00累計)

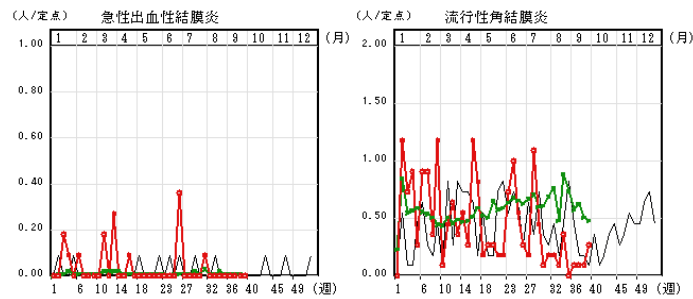
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵袭性インフルエンザ菌感染症	侵袭性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風
累積報告数	289	18	2	3	10	1	3	1	6	8	1	1	3	1	6	4	1

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第39週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、 ×—×は2014年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第39週)



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第39週)

